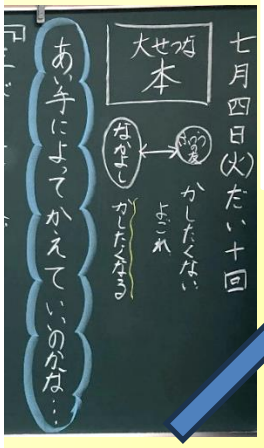
学　年	教科等	主題名	日　時
第２学年	道徳科	好き嫌いにとらわれない心	令和５年７月４日(火)５校時
研究主題	自律的に学ぶ子どもの育成		
研究内容１の手立て	**【道徳的問題を「自分事」として考えるための手立ての在り方】** ぴょんたが親友のわんただけをかばう言動は、子どもからすると「ずるい」言動として受け止められるだろう。しかし、された側の立場にだけ立ち、ぴょんたの言動を批判的に捉えるだけでは、「自分事」として考えられていないのではないかと考える。仲のよい友達を助けたいという気持ちは誰にでもあり、学級のなかでもそのような場面を見ることもある。そこで、「自分にもぴょんたのような気持ちがあるかもしれない。」と、共感的に捉えることができるように導入を工夫する。		
研究内容２の手立て	**【子どもの多様な考えを引き出し、多面的・多角的に考えさせるための手立ての在り方】** 展開の場面では、ぴょんたがえこひいきをした場面について、一人一人の心情を問うのではなく、「どう思う？」と広く問う。広く問うことで、子どもは様々な立場に立って考えたり、善悪の判断、正直・誠実といった、多様な内容項目と関連させたりしながら、多面的・多角的にぴょんたの言動について考えられるようにする。 また、ぴょんたがみんなのところに走っていった場面では役割演技を行わせる。この場面は教科書には書かれていないため、子どもが自分なりにぴょんたの言動を考える必要がある。誰に何を言うのか、また、その言動の理由を問うことで、子どもの多様な考えを引き出していきたい。		

○　子どもの姿からの報告

道徳的問題を「自分事」として考えるための手立て

「友達にだけ親切にしたくなる気持ち」を想起できる導入



【導入の板書】

最初に、「とても大切な本を普通の友達に貸しますか？」と発問したところ、多くの子どもが「貸したくない。」と反応した。その後に、「大好きな親友だったら？」と問い返すと、「迷う。」「貸す。」という反応が見られた。そこで、「親友だったら貸すんだね？」と問い返すと、「いや、それはよくないかな。」「親友だからって…。」と人によって貸す、貸さないを決めることに問題意識をもつ様子が見られた。

【ふりかえりの様子】

授業後のふりかえり記述（A 児）

私は普通の友達には大切な本は貸さなくて、仲よしな友達にはちょっと貸してあげようかなと思っていたけど、だめだと分かりました。なぜなら、その相手が傷つくからです。

終末のふりかえりを書く際に、導入場面に再度目を向けさせることで、授業前と授業後の自分の考えの変容や、その理由について考え直す姿が見られた。しかし、書かせる前の教師の声かけが曖昧だったため、そのようなふりかえりを書いた子どもは少なかった。

子どもの多様な考えを引き出し、多面的・多角的に考えさせるための手立ての在り方

①「どう思う？」と広く問う発問

ぴょんたの言動について「どう思う？」と発問をすると、ぴょんたの言動の問題点やぽんきちの気持ち等について、様々な視点から考える姿が見られた。また、「公正、公平」の視点や、「正直」「親切、思いやり」等、様々な内容項目を基に考える姿も見られた。

【３匹それぞれの立場からの意見をまとめた板書】

②役割演技

役割演技をすると、くまおじさんや、ぽんきちに「ごめんなさい。」と謝る子どもが多くいた。なかには、わんたに対しても謝る子どももいた。子どもによって、誰に、何を謝るのかが違うという点では、多面的・多角的に考える手立てになったのではないかと考える。

【みんなのところへ走っていった後の、ぴょんたの行動についての役割演技】

○　考察

○　研究内容１について

導入での自分の考えと、授業後の自分の考えを比較させるような声かけをすることで、自分の考えの変容に気付いたり、変容した理由を考え、主題についての理解を深めたりすることにつながると考える。そのようなふりかえりを行うために、今後はふりかえりの前の教師の声かけや、時間設定を改善していきたい。

○　研究内容２について

広く問う発問は、多様な意見が出されるため、整理するための板書の工夫や、ねらいに迫るための教師の問い返しが重要となってくることが分かった。

役割演技をした子どもへの教師の問い返しによって、ねらいに迫ることができる。役割演技をさせる際は、事前に教師の問い返しをしっかりと考える必要がある。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり（★は評価にかかわるもの）
1　具体的な場面を基に自分の行動を考え、主題についての問題意識をもつ。 ◇　大切な本を親友と普通の友達から「貸して。」と言われたらどうしますか？ ・　親友には貸すけど、普通の友達には貸さないかもしれない。 ・　順番を決めて貸すかな。 ・　大切な本だから親友にだけ貸すかな。　等 ○　学習テーマ 相手によって行動が変わってもいいのかな・・・	○　具体的な場面を基に、自分だったらどうするかを話し合わせ、相手によって行動が変わることがあることや、親友には特に優しくしたいという気持ちがあることに気付くことができるようにする。 ○　親友と普通の友達に対するそれぞれの行動を、比較できるように板書をすることで、相手によって行動が変わることについて気付けるようにするとともに、問題意識をもつことができるようにする。
2　読み物教材「三びきは　友だち」を視聴し話し合う。 ○　ぴょんたの言動について ◇　ぴょんたが「ぽんきちさんです。」と言ったことについてどう思う？ ・　ひどいと思う。ぽんたがかわいそう。 ・　親友でも、正直に言った方がよいと思う。 ・　親友だけをかばって、ずるい。 ・　でも、親友を助けたい気持ちも分かるよ。 ・　わんたは嬉しいのかな？　等 ◇　なぜわんたは悲しそうな顔をしたのかな？ ・　ぽんきちに申し訳ないから。 ・　自分もしたのに、怒られていないから。 ・　ぴょんたがかばってくれたけど…。　等 ○　ぴょんたの心情の変化について ◇　走っていったぴょんたは何を言うのかな？ ・　２人ともわざとではないんです。 ・　私も一緒に遊んでいました。すいません。 ・　ぽんきちさんだけがやったって言ってごめんなさい。　等	○　教材を読む前に、３匹の登場人物とその関係を挿絵や矢印を使って整理することで、物語の内容を理解することができるようにする。 ○　子どもの発言を、人物ごとに板書で整理したり、吹き出しを使って思いを整理したりすることで、不公平な言動に対する周囲の人々の思いについて、多面的・多角的に考えることができるようにする。 ○　ぴょんたを非難する発言が多い場合は、「もし自分だったら親友のことも言いますか？」と問い返し、親友をかばおうとしたぴょんたの気持ちについても共感的に考えられるようにする。 ○　かばってもらったわんたの気持ちを考えさせることで、たとえ親切のつもりであっても、不公平な態度は、誰にとってもよい気持ちにならないことを理解できるようにする。 ○　ぴょんたが走っていった場面を役割演技させ、その言動の理由を問うことで、後悔している心情や、誰に対しても分け隔てなく接していくことのよさについて考えることができるようにする。
3　自分の経験をふりかえり、主題についての考えをもつ。 ○　主題に対する自分の考えについて ・　仲のよい友達だけではなく、みんなに優しくしていきたい。 ・　親友だけに優しくしても、誰も嬉しくないことが分かった。　等	★　板書を基に、導入場面や主題についてふりかえることをとおして、主題について考えたことや学んだこと、これからの自分の生き方について、ノートに書くことができるようにする。
○　公正、公平につながる日常の様子について ・　図工のときに絵の具を貸してもらって、嬉しかったよ。 ・　仲間に入れてもらって嬉しかったな。　等	○　公正、公平につながる子どもの写真を提示し、その時の気持ちを問うことで、誰に対しても分け隔てなく接することのよさについて、余韻をもって授業を終えることができるようにする。

○　本時の評価規準

ぴょんたがとった言動について共感的に捉えたり、周囲の人物の心情やぴょんたの心情の変化について考えたりすることをとおして、誰に対しても分け隔てなく接していこうという思いを高めている。
【一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか】

○　本時の板書